慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	東北大学附属図書館狩野文庫蔵「尚徳堂書目」所収孝経異本目次：翻字並解題
Sub Title	List of the variant editions of Kokyo (孝経) in the Shotokudo catalogue in the Tohoku university library, with transcription and bibliographical notes
Author	大沼, 晴暉(Onuma, Haruki)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1996
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.31 (1996.) ,p.249- 272
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	平澤五郎教授退職記念論集 資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000031-0249

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料紹介

東北大学附属図書館狩野文庫蔵「尚徳堂書目」所収

孝経異本目次

―翻字並解題―

大沼晴暉

凡例

一、本書は東北大学附属図書館狩野文庫蔵「尚徳堂書目」に附された「孝経異本目次」を翻字したものである。

一、翻字はなるべく原本のおもかげをとどめることに努めたが、字体の制約上原本そのままの形はとっていない。

1、漢字は新旧別体を生かし、類似の字体で翻字した。

2、仮名は通行体を用いた。

3、字詰・字配りや字の大きさは、活字の制約のため必ずしも原本通りとはなっていない。例えば、解題に記した如く原本では七格の書名欄に八字の書名を入れる場合小書にして七格に収めているが、本翻字では、書名に八字分の欄をとっている等である。

一、此翻字の希望をお認め下さった東北大学にあつく御礼申上げる。

孝經異本目次

板本

㊀	古文孝經	慶長	七年八月	孔安國傳 清原秀賢跋	活版	全
㊁	古文孝經	同	七年	孔安國傳	活版	全
㊂	孝經大義	寛永	五年四月			全
㊃	孝經	正保	四年八月			全
㊄	孝經列傳	承應	二年正月		中野市右衛門板	七卷貳册
㊅	孝經註解	同	同上		同上	全
㊆	孝經大義	同	三年七月		中村長兵衛板	全
㊇	孝經刊誤	明暦	二年四月		京都 武村市兵衛板	全
㊈	孝經外傳	同	同上	山﨑嘉著	同上	全

十	孝經大義 頭書	同	三年正月	奥付小異	全部貳
十一	孝經見聞抄 仮字	萬治	三年二月	林道春著	松長伊右衛門板	三卷壱册
十二	古文孝經諺解			林羅山口授	西村又右衛門板	三卷三册
十三	孝經	寛文	二年八月		京都谷口三餘板	全
十四	孝經纂註	同	四年九月	貝原元端纂註	長尾平兵衛板	全
十五	大和孝經	同	四年十二月			六册
十六	孝經大義	同	五年五月		長尾平兵衛等板	全
十七	孝經大義 頭書	同	七年春			全
十八	増註孝經大義	同	八年五月	松庵片朴元著	西田爾弓齊板	三卷三册
十九	孝經大義講草鈔 仮字	同	九年九月		京都上村次郎衛門板	六册
二十	孝經集傳	同	九年十一月	明黄道周輯	唐本屋宇兵衛板	四卷貳册

二二	孝經大義	同	十九年十月		大坂松村九兵衛板	全
二三	孝經大義證解	延寶	十五年十月	林門松浦默著	江戸戸島惣兵衛板	四卷貳册
二三	孝經大義	貞享	元年五月	道春點	栗山宇兵衛板	全
二四	孝經大義	同	元年六月		京都誓願寺前小河多左衛門板	全
二五	孝經大義詳解	同	五年八月	京都芦川桂正柳著	村上勘兵衛板	四卷貳册
二六	古文孝經	元禄	七年八月	孔安國傳	大坂油屋與兵衛板	全
二七	孝經刊誤集解	同	九年六月	京都中村惕齊著		全
二八	孝經示蒙句解	同	十六年五月	同上	京都武村新兵衛板	全
二九	同上	同		同上	京都菊屋七郎兵衛板	全
三〇	孝經唐玄宗八分	寶永	三年九月		中村詩林堂板	三册
三一	孝經大義詳略大全	正德	六年四月	洛下毛利貞齊輯書肆錢屋儀兵衛		貳册

三二	孝經安知鈔 仮字	享保	三年正月	江戸 勝田祐義編	三卷壱册
三三	孝經釋義便蒙 仮字	同	三年	竹田定直著	京都 茨城多左衛門板	三卷三册
三四	孝經便蒙附纂	同	六年	同上	同上	貳卷貳册
三五	古文孝經	享保	六年四月	博士清原尚賢跋		全
三六	孝經	同	十七年十一月	孔安國傳 太宰純音	江戸 紫芝園板	全
三七	今文孝經	寶暦	三年正月	鄭註 讃岐良芸之句	京都 堺屋嘉七板	全
三八	孝經音義	同	三年七月	唐陸德明撰	風月堂 莊左衛門板	全
三九	孝經述	同	六年二月	東都 赤松弘著	江戸 和泉屋吉兵衛板	全
四〇	孝經集説	同	六年九月	井上金峨撰	江戸 玉海堂板	全
四一	孝經刋誤	同	九年二月	田口正胤書		全
四二	孝經集説	明和	四年九月	井上金峨撰	江戸 藤水(ママ)久市等再板	全

四三	孝經指解補註	同	二五年月	信濃南宮岳著	京都田中市兵衛等板	全
四四	古文孝經國字解	同	八七年月		小林新兵衛板	貳卷壱册
四五	孝經集覽	安永	四正年月	山本信有撰	奚疑塾板	貳卷貳册
四六	古文孝經國字解	同	十五年月	武都勝田祐義編	大坂柏原屋佐兵衛購板	三卷三册
四七	孝經	同	正七年月	太宰本	小林新兵衛新板	全
四八	孝經	同	二七年月	信濃冢田多門註	小林新兵衛板	全
四九	翻刻古文孝經序跋	天明	八元年月		嘉靖堂板	全
五十	孝經童子訓	同	五元年月		京都山本長兵衛板	全
五一	古文孝經	同	十元年月	孔安國傳清原宣條板(ママ)	江戸小林新兵衛板	全
五二	孝經直解 仮字	同	上同	尾張松平君山著	名古屋本町藤屋吉兵衛板	全
五三	古文孝經	同	三二年月	太宰本	知不足斉叢書本小林新兵衛翻刻	全

	附	古文孝經	宋本		
五四		古文孝經國字口義	同	四年五月	棚倉文學菅敬勝著	小林新兵衛板	全
五五		古文孝經解	同	六年九月	孔傳阿州道齊著	監憲齊板	全
五六		孝經	同	六年十一月	平林三岳書	小林新兵衛板	全
五七		孝經	同	六年	司馬光指解	小林新兵衛板	全
五八		古文孝經和字訓	天明	八年正月	塚田多門訓	小林新兵衛板	全
五九		玄宗御註孝經補義	同	八年六月	篠山侯補	丹波篠山振德堂板	全
六十		古文孝經參疏	同	八年七月	片山兼山講授山中祐之輯	小林新兵衛板	三卷壱册
六一		孝經	同	八年九月	東江書	小林新兵衛板	全
六二		孝經大義	同	八年十一月		大坂河内屋八兵衛板	全
六三		孝經小解 仮字	同	同上	熊澤了介海著	江戸西村源六等板	貳册

㊅四	古文孝經國譯	寛政元年十一月	江戸 松本廉安譯	門人蔵板	全
㊅五	孝經刋誤集解	同 上同	中村惕齊著	小林新兵衛板	全
㊅六	神儒佛三法孝經口解	同 三年夏	豆州 円通山板		貳冊
㊅七	孝經	同 三年十一月	鄭註 尾張河村益根序		全
㊅八	孝經	同 四年正月	清任兆麟集註	大坂 泉本八兵衛等板	全
㊅九	古文孝經正文	同 四年九月	太宰純訓點	小林新兵衛再板	全
㊆十	孝經外傳	同 五年七月	村瀬櫟岡著	時習館板	全
㊆一	孝經鄭註	同 五年秋	尾張 岡田挺之序	尾州 永樂屋東四郎板	全
㊆二	藍田先生孝經講義	同 六年五月	東亀年著	伊東金蔵板	全
㊆三	古文孝經解詁	同 六年六月	五溪平龍著		全
㊆四	孝經餘論	同 九年十二月	武蔵 豊島幹撰	由巳(ママ)堂板	全

七五	較定孝經	同	九年	山本信有較	明道館板	全合本
	附 孝經撮説					
七六	孝經御註譯義	同	十年	甲陽平景敬譯	甲斐鶴郡渡邉角右衛門板	全
七七	同 上	同	十年秋	同譯	京都河南儀兵衛板	全
七八	古文孝經 弘安本	同	十一年十月	孔安國傳	佚付(ママ)叢書第一帙	全
七九	孝經御註	同	十二年壬四月	阿波佐野憲校	京都堺屋伊兵衛板	全
八十	御註孝經 逍遥院本	同	十二年五月	尾代(ママ)弘賢摸刻		全
八一	古文孝經 足利本	同	十二年夏	足利山本龍校訂	小林新兵衛板	全
八二	孝經印譜	享和	二年二月	和州高取侯著	遊焉館板	五冊
八三	孝經孔序直解	同	同上	江戸日比文校	偕樂堂板	全
八四	標説孝經	同	二年三月	孔傳 太宰音 渋井太室標説	米澤好生堂板	全

八五	古文孝經解 仮字	同	二年十月	金勝仙解	小林新兵衛板	全
八六	孝經鄭註補訂	文化	元年十二月	下総窪木清渊補訂	下総窪木氏板	全
八七	御註孝經 石經本	同	三年八月			壱帖
八八	孝經會通	同	四年八月	明沈准譔	小林新兵衛板	全
八九	御註孝經	同	五年正月	菅原為德校	京都河野信成板	全
九〇	古文孝經定本	同	六年三月	江戸朝川鼎考定	學古塾板	全
九一	孝經仮名附	同	六年三月		江戸蔦屋重三郎板	全
九二	經典餘師孝經	同	六年七月		大坂河内屋太助等板	全
九三	古文孝經私記	同	八年十一月	江戸朝川鼎著	小林新兵衛板	貳卷貳册
九四	孝經刊誤	同	八年十二月	大槻清準訓點	養賢堂板	全
九五	補訂鄭註孝經	同	九年八月	下総窪木清渊著	江戸西宮弥兵衛等板	全

九六	繪本孝經	同	十年春	江戸 蕙齊画	尾張 片野藤四郎等板	全
九七	孝經鄭氏解	同	十一年九月	清洪頤煊補證 上総東條弘増攷		全
九八	孝經鄭註	同	十二年	尾張 岡田挺之校	官板 知不足斉叢書本翻刻	貳冊
	附 孝經鄭註補證			清洪頤煊著		
	孝經鄭氏解輯			清臧鏞堂述		
九九	古文孝經講釋 仮字	同	十二年夏	小林文由錄	小林新兵衛板	貳卷 貳冊
一〇〇	經典餘師孝經	同	十二年五月		江戸 山盛堂板	全
一〇一	指解 校本 古文孝經	同	十三年八月	尾張 神埜世猷校	尾州 片野東四郎等板	全
一〇二	古文孝經證話	同	十三年九月	女護島高閔慎撰		全
一〇三	合刻四書 孝經	文政	元年八月	上毛 片山世璠訓點	江戸 西村宗七板	全
一〇四	國字孝經	同	元年十一月	亀田興序		全

一二五	孝經宗旨	同	二年四月	明羅汝芳著	小林新兵衛板	全
	附 孝經引證			明楊起元纂 江戸崐峒山如山校		
一二六	古文孝經 弘安本	同	六年十月	阿部正精跋		全
一二七	孝經考文	同	七年四月	尾張永井襲吉訂正		全
一二八	御製孝經	同	九年十一月	唐玄宗註	宋板狩谷求古楼重彫	全
一二九	孝經發揮	同	九年	伊勢津坂孝綽著	有造館板	全
一三〇	孝經國字解	同	十年春	信濃伊藤祐義忠岱著	仰継堂板	全
一三一	古文孝經	同	十二年四月	孔傳 太宰音 山子點	小林新兵衛板	全
一三二	孝經正文	同	十三年三月			全
一三三	孝經両造簡字 仮字	天保	元年	東條弘著		全
一三四	待問錄 孝經仮字	同	同	東條弘門人輯	龍麟館板	全

二五	孝經集傳	同	四年六月	紀伊山本惟孝著	紀州帶屋伊兵衛等板	全
二六	孝經義 仮字	同	五年	明德館祭酒金順天著		貳卷貳冊
二七	增補孝經彙註	同	六年四月	明江元祚刪輯大鹽後素增補	大坂河内屋吉兵衛板	三卷三冊
二八	孝經韵語圖解	同	六年十一月	蕨驛醫岡田静安著	松響園板	全
二九	孝經傍訓	同	八年正月	越前三國直準述	一洗堂板	全
三〇	古文孝經正文	同	八年六月	朱熹鑒定大坂鈴木定寛句讀	大坂鹽屋弥七再板	全
三一	古文孝經	同	十年	信濃山田文静附錄	活字慶長本翻刻	全
三二	孝經通	同	十一年	越前蒔田貞註	京都木村吉右衛門板	貳卷貳冊
三三	孝經 正文	同	十三年		鹿児島府学改正板	全
三四	孝經識	弘化	元年	物茂卿著	甘雨亭叢書第四集	全
三五	孝經啓蒙	同	元年八月	中江藤樹著	同第五集	全

三六	古文孝經	同	二年三月	孔氏傳 正二位清原宣條校	伏原家板	全
三七	孝經	同	二年七月	孔傳 太宰音 江戸小畑行簡訂		全
三八	孝經纂義	同	二年十月	江戸 中江豊民著	明善堂板	貳卷貳册
三九	古文孝經 頭書	同	三年冬	孔安國傳 出羽伊藤馨著	京都 学半楼板	全
四十	孝經	同	三年十二月	菅家音訓 桒門一桂跋		全
四一	孝經刊誤	同	四年十二月		會津藩板	全
四二	古文孝經	嘉永	三年二月	市川三亥書	薩摩府学板	全
四三	古文孝經攝字註	同	四年六月	温齊綾部侯著		全
四四	孝經刊誤集註	同	四年九月	仙臺氏家顯述	新潟常善堂板	全
四五	孝經童子訓	同	六年九月		京都 俵屋清兵衛等再板	全
四六	孝經	安政	五年五月	山﨑嘉點	大坂 前川源七郎求再板	全

二三七	古文孝經標註	同	七年正月	孔傳 太宰音 片山世璠標註	小林新兵衛再板	全
二三八	孝經	同	同上		水戸彰考館板	全
二三九	孝經	元治	元年二月	小畑行簡譯	詩山堂板	全
百四十	孝經參釋	慶應	四年春	魯齊川碕履著	尚志堂板	全
二四一	古文孝經 正文	明治	二年十月		京都田中屋專助板	全
二四二	孝經刊誤	同	三年六月			全
二四三	孝經講義	同	三年十一月	岡山藩督学 安藤道集説	五明舘板	全
二四四	古文孝經正文	同	五年四月	片山改點	京都遠藤平左衛門等板	全
二四五	古文孝經略解	同	七年十二月	細野栗齊著	文光堂板	全
二四六	古文孝經	同	十三年二月	綽堂校本	東京小泉堂翻刻	全
二四七	同 上	同	十四年十月	同上	東京文永堂翻刻	全

四〇	同上	同	十四年十一月	同上	東京芳潤堂翻刻	全
四一	古文孝經	同	十四年十一月	太宰純訓點	小林新兵衛五刻	全
四二	古文孝經	同	十五年一月	静岡縣士族家里隆蔵訓解	東京高山堂板	全
四三	古文孝經略解	同	十五年五月	渡井量蔵註釋	甲府徴古堂板	全
四四	古文孝經	同	十五年十一月	橋爪貫一訓點	東京觀光楼板	全
四五	明治新註古文孝經校本	同	十六年一月	丹波関德士順集註	大坂府出板	全
四六	古文孝經標註	同	十六年五月	片山兼山註	小林新兵衛六刻	全
四七	古文孝經解釋	同	十六年五月	松井方景櫻井省吾編	東京猶興社板	全
四八	標註増補古文孝經	同	十六年六月	鵜飼静麿編	東京金港堂板	全
四九	古文孝經標註	同	十六年十一月	標註高木熊三郎	大坂筑城勇助板	全
五〇	鼇頭古文孝經纂註	同	十六年十一月	孔傳備後五十川左武郎纂	大坂欽英堂板	全

二五九	古文孝經評註	同上	孔傳 董鼎大義 後藤松陰評註	大坂 清水兵之助板	全	
百六十	古文孝經簡解	同上	埼玉縣 二宮喜久衛解	埼玉 開産商社板	全	
二六二	諺解古文孝經	同	十七年六月	大槻東陽編	松月堂板	全
二六三	標註訓點 古文孝經	同上	綿引泰著	東京 文選楼板	全	
二六三	古文孝經標註	同	十七年十一月	宮城縣士族 土生柳平標註	目黒氏板	全
二六四	孝經講釋	同	十七年十二月	熊澤遊軒講釋 大塩中齊参釋	山中市兵衛翻刻	貳卷 貳册
二六五	今文孝經	同	十七年十二月	唐玄宗註 橋村正璟標註	金港堂出板	全
二六六	孝經講義	同	十八年四月	内藤耻叟講述	斯文学會製	全
二六七	大字 古文孝經	同	十九年五月	妻有巳之輔訓點	播州 五車堂板	全
二六八	孝經纂註校本	同	十九年十月	加賀金澤 田中正義著	石川縣平民 観文堂池善平板	全
二六九	孝經定本	同	廿一年七月	松本豊多著	松本氏板	全

百七十	傍註輯釋孝經定本	同	廿六年四月	讃岐牧野謙著	東京青山清吉板	全
一七一	孝經滴解	同	廿六年五月	丹波多紀郡大石貞質著		全
一七二	孝經	同	廿六年夏	成瀬正雄題字		全
一七三	孝經講義	同	廿七年三月	東京高橋省三講義	学齢舘板	全
一七四	古文孝經講義	同	廿七年三月	東京松井方景講述	東京井上勝五郎板	全
一七五	孝經講義	同	廿七年十月	東京市深井鑑一郎講述	東京伊藤岩次郎板	全
一七六	考訂孝經	同	廿九年五月	京都山本章夫著	京都讃書室板	全
一七七	孝經塾本	同	同上	京都谷鐵臣錄	京都枕易齊板	全
一七八	孝經	同	三十年六月	枚首載水戸烈公序青山勇跋	尚德堂板	壱枚
	以下出板年月不詳					
一七九	孝經啓蒙	中江藤樹註蓋係初板者				全

一八〇	十三經註疏 孝經	西堀川唐本屋吉左衛門発行	三冊	
一八一	孝經 白文	太輪廓	全	
一八二	孝經	玄宗註○養賢堂板○巻尾云江川弥三郎彫	全	
一八三	孝經 白文	巻首有福山文庫印	全	
一八四	孝經 白文	越前福井帶屋喜平治板	全	
一八五	古文孝經 正文	由学舘蔵有封内必究朱印	全	
一八六	同 上	由学舘蔵有封内必究朱印○板異於前者	全	
一八七	音註正文古文孝經	京都三條通升屋勘兵衛板	全	
一八八	古文孝經 正文	巻首云嵩山房梓而本文所刻可疑	全	
一八九	孝經 正文	巻首云開宗間居曾子侍坐	全	
一九〇	古文孝經 正文	新本入帙	全	

一九二 新鐫改正孝經 正文 活字本毎葉折目有倭板無點四字 全

一九三 古文孝經 正文 大澤氏蔵板源道安讀子道賢校孫喜謹刻 全

一九三 古文孝經外傳 廣陵齊叔子大禮輯 全

一九四 孝經證 女護島高閔慎輯○萬壽堂板 全

一九五 縮刻唐石經孝經 全

一九六 孝經 卷首有翠竹書堂蔵書朱印 全

一九七 孝經 晉王義之草書○江府日本橋通小川彦九郎等板 全

一九八 孝經 奥州塩竈人集王義之書 壱帖

一九九 古文孝經 正文 卷尾云盧山寺蔵板施本 全

二百 孝經 蓋係沼津小学校用者 全

計貳百部 貳百四拾五册 貳百六拾参卷

解　題

東北大学附属図書館狩野文庫蔵　尚徳堂書目　〔青山雷巖〕編　写（寄合書）　半一冊

後補薄小豆色空押卍つなぎ「東北帝国／大学図書」浮出表紙（二四・〇×一六・五糎）。本文共紙元表紙左肩「尚徳堂書目全」と書さる。「一　第一函　日本書紀／第二函　史記／……／九三　板本孝経」と上下二段に分ちて目録二丁あり。内題なく「〇（朱丸）第一函」と題し、題下小字双行にて「以下第拾函ニ至ル迄ハ門外不出トシテ他借ヲ許サズ不／得已他借ヲ許ス時ハ必ス証書ヲ取置ク可シ」と注記、欄脚に朱書にて「丑」と書さる。次行「日本書紀　拾五冊／古事記　上中下／旧事記　五　冊／……」の如く収蔵書記さる。双辺（一九・七×一四・五糎）有界十二行三十字詰の白口朱刷罫紙に書写され、版心下象鼻表丁に丁付が記されている。丁付は「五五－六十」と跳丁あり、「六六」は無く、「百一」丁迄。第八七丁より「〇法令全書拾弐冊」（目録には「八七　法令全書」とあり）、第八八丁より、末に「総計百五十七巻」と計量する「〇小笠原流諸礼秘巻目次」（目録には「八八　礼書之巻」とあり）のコレクションを附し、第九三丁より本論集に翻字せる「孝経異本目次」九丁附さる。「孝経異本目次」末に「計弐百部　弐百四拾五冊　弐百六拾参巻」と孝経異本計量さる。乃ち孝経板本二百点の目録である。なお「異本」は正しくは「異板」とすべきであろう。

本書は第四函が「瑤谿先生手写」「以下至……皆係拙斎先生手写」、第五函が「瑤谿先生手写」「以下至……多係拙斎先生手写」「以下至……多係春夢先生手写」、第六函が「大抵係拙斎先生手写」「以下至……悉係拙斎先生手写」、第七函が「函中悉係春夢先生手写」、第八函が「以下至……係一渓先生手写」「以下至……係瑤谿先生手写」「以下至……係拙斎先生手写」「以下至……係春夢先生手写」「以下至……大抵皆係春夢先生手写」等とある如く、一渓（興道）瑤谿（一渓養子・延彝）拙斎（瑤谿男・延于）春夢（拙斎長男佩弦斎・延光）と続いた水戸藩儒の名家青山家の雷巖（佩弦斎男・延年）に至る代々の伝世書目であろう。さればこそこれら先祖の自著手写本書入本を主に収納する第拾函迄が門外不出の書とされた訳である。

一渓（興道、宝暦六年没）
瑤渓（延彝、享和元年没）
拙斎（延于、天保一四年没）
佩弦斎（春夢、延光明治三年没）
雷巖（延年、勇、明治四三年没）
松渓（佐藤中陵家へ養子延昌、嘉永六年没）
柳庵（佐々木家へ養子、延之、明治四年没）
鉄槍斎（延寿、明治三九年没）
延方（天保一一年以前夭折）

本蔵書目は函号を記すのは第拾弐函迄で、第十丁の論語以下函号は空格となっている。目録中の数字は丁数で、五六―五九は目録にも著録されず、第五五丁裏は末二行を残しているので欠丁ではないように思う。第六五丁は末一行、第六七丁は首一行が空格だが、該書は「孝経異本目次」は異るものの、原則として始終の一行を空格とするので、これは欠丁の可能性もあるかも知れない。因みに此項は「拙斎先生抄書　先世手抄」と目録に題されている。

青山家は佩弦斎の所用と云われる巻物型の「水戸青／山氏蔵」と陽刻された朱の蔵書印が知られ、代々の蔵儲も秀れたものであったが、如何んせん蔵書は散じ、現今もままその蔵印ある書を諸所で目にする事が多い。なお青山家旧蔵本は国立国会図書館にかなりまとまって収蔵されている。これらは雷巖死没直後の明治四十四年、大正元年の入蔵である。本年表に著録された孝経類の大半は書目と共に狩野亨吉氏の手に帰したのは幸であった。

本書は第十丁より朱筆にて〇〇（点墨）等と函号の眉上に標記されている。本書中に銘記された最も刊年の下るものは、明治卅二年四月、前田直行著、野村宗十郎板「加賀藩史纂」である。

本目は刊年・著者・出版者を記すは稀で（写本はただ写とするものが多い）、殆どは書名と冊数を著録するに過ぎない。ただ目録で示せば、第十丁よりの論語、第十一丁周易、第十二丁孔子家語・小学、第二六丁延于等の著作である皇朝史畧・国史紀事本末、第二七丁太平記・常山紀談、第二八丁泰平年表、第四十丁白石年譜、第四五丁不二山、第六四丁山陽詩抄（刊年のみ記載）、第六九丁鈐録、第七八丁十八史畧、第七九丁五雑俎、

第八十丁古文前集、第八一丁陽明要書、第八二丁詩人玉屑等を含む同類書の記載はやや詳しく為されている。

巻末に附された幾つかのコレクションのうち「孝経異本目次」と題された九丁は出色のもので、孝経一七八点を慶長七年八月から明治三十年六月迄刊年順に排した年表とし、尾に「出板年月不詳」の二二点、計二百点を著録した孝経板本一覧表である。書式は書名（七格）、一格空けて刊行年月（四格、年月小字双行）、一格空けて編著者（七格、小字双行）、一格空けて出版地・出版者（六格、小字双行）、一格空けて冊数（二格）となっており、眉上には一から二〇〇（丸印朱印）の通し番号が附されている。再板・求板・五刻・六刻等刊の同異や、「板異於前者」「太輪廓」等同種のもので他と異る標識を見出すべく、仲々苦労している様子が注記として随所に見受けられる。

実は年表の掉尾を飾る一七八番「孝経」がこの蔵書目の素性を明らかにしてくれる。壱枚刷で枚首に水戸烈公の序を載せ、青山勇の跋が備わる明治三十年六月尚徳堂の刊行に係る此書が、乃ち本蔵書目の蔵儲者尚徳堂青山雷巖の刊行した「孝経」なのである。

本年表で得られる新知見を一例せば、一三八番群書治要鄭注本「孝経」は私の調査では未だ刊記あるものを見ないが、本書ではその刊年を安政七年正月とする。これは地元しかも自家の関係した彰考館の刊本だけに信憑性があろう。

東北大学附属図書館狩野文庫は様々な分野の豊庫であるが、書誌書目についても実に多くのものを蔵している。これはとりも直さず旧蔵者狩野亨吉氏の志と資質とを如実に示すものである。本書も青山家の蔵書目として全文を翻字する価値があるが、今回は附載される「孝経異本目次」に限って翻字した。本目は恐く最も早い時季の孝経目録であろう。

個人の蔵書家は書買に立寄り目星しいものがない時薄冊で何処にでも転っていた孝経をおあいそに購い、そのうち鮑魚の肆興を覚え段々と深みにはまり蔵儲を殖やしてゆくことが多かったらしい。儒者・コレクターに亦古書肆にも何人か孝経を蒐める人々があった。その主要なものについては「斯道文庫論集」第十四輯の「江戸時代刊行成立孝経類簡明目録」、同二十一輯「孝経目録補遺並江戸時代孝経刊行年表」で触れた。

他に未確認ながら古書肆では京の春和堂若林正治氏、大阪の清和堂石川留吉氏の蔵儲がある。後者は林秀一氏の編になり、田結荘金治氏蔵本を加え昭和九年七月九日大阪書林倶楽部に於

て展観せられ、刊本三一八点（刊年順、自寛永五年至昭和八年二七五点、以下刊年未詳）、以下写本至三三〇、朝鮮本・唐本至三四二に林氏蔵本一五点を加え、「孝経展観目録」として刊行されている。

本年表に苦辛著録された夫々の、刊印修の詳細・実態・板木の異同等は、前記「斯道文庫論集」所収の目録を御参照頂きたい。当時の書誌学の力が実感されるのではないかと思う。

江戸時代刊行成立 孝経類簡明目録補遺

なお此機会に、前述の「斯道文庫論集」所収の二目録に洩れた、其後管見に入った「孝経」を補記しておく。記述は「江戸時代刊行成立孝経類簡明目録」の凡例に準じ、番号は前稿目録の著録されるべき場所の前の番号に補の字を加えた。23補とあれば、23番と24番の間に分類されるべき本であることを意味する。

95補は狩野文庫に二部あるが、前回借出されて見るを得なかったもの。その一は「水戸青／山氏蔵」の印が鈐され、まさに本年表に著録された書そのものである。これには「西嶋／氏記」の蔵印もあり、蘭渓等代々の儒家に襲蔵されたものであろう。139補は高橋智氏の厚意により手にしたものである。

23補　孝経　太宰〔春台〕（純）校　弘化四年一月刊（花巻　南涼園堀内謙蔵蔵版）　中一冊（木活）

④孝経／漢　魯人　孔安国伝／日本信陽　太宰純音　⑤単有6行12字。黒口　⑥孝経終　⑧弘化四丁未孟春吉旦／盛岡花巻／南涼園活字蔵版／（隔一行）／堀内謙蔵蔵書　⑨岩手県立図書館

95補　古文孝経巻第一（孝経孔序直解）　隋劉炫撰　日比東湖（文）校　享和二年二月刊（江戸　日比氏偕楽堂蔵板）　大一冊

①孝経孔序直解　②江戸東湖先生校／孝経孔序直解／偕楽堂蔵梓　④古文孝経巻第一／隋　劉炫直解　日本江都　日比文校／古文孝経序……／孔安国……　⑤双有9行18字小双。白口。上象鼻に「古文孝経序」。魚尾下に「巻之一　朋来舎蔵」　⑧日比平蔵校／享和二年壬戌春二月／荏土偕楽堂蔵梓　⑨狩

139補　孝経　〔江戸後期〕刊（京　文華堂北村太助）半一冊

①　④孝経　⑤無無6行8字。版心「孝　丁付」　⑥孝経終　⑧広告書目／京都書林　文華堂　五条橋通高倉東入　北村太助　⑨家蔵